

- 1 会議名 総務・産業建設常任委員会協議会
- 2 日時 平成30年7月23日（月）
午後4時8分～午後4時45分
- 3 場所 第2委員会室
- 4 出席委員 （委員長）櫻井伸賢、（副委員長）榊谷規子
（委員）大野慎治、塚本秋雄、相原俊一、須藤智子、梅村均
- 5 説明員 行政課長 佐野剛、商工農政課長 神山秀行、同統括主査 高田久嗣、同主事 桑野侑樹
- 6 事務局出席 議世事務局長 隅田昌輝、同主任 高野真理子
- 7 委員長挨拶

政策提言に向け、私なりにテーマを一つ提示したが、固執しているのではなく、関係団体等のヒアリングを行うなかで、一つでも解決出来たらという思いから。大都市近郊のベッドタウン岩倉として、今後の農業はどうあるべきなのか。本日は商工農政課から、岩倉市の現状を教えてもらう。

8 協議事項

（1）岩倉市の農業について

商工農政課統括主査：配布資料に基づき説明。

櫻井委員長：詳細な説明をありがとう。次回は、農協の考えを聞きたいと思うが、その前に何かやりたいことがあれば申し出てほしい。桜やデマンド交通を先に、という意見があれば。

（意見なし）

櫻井委員長：では、次回は農協へ伺い、所管事務調査として農業に対する考えをヒアリングしたい。江南の本店に。

須藤委員：岩倉支店でよいのでは。

榊谷副委員長：今、市が実施している事業について説明をしてもらったが、掘り下げなくていいか。

櫻井委員長：成果報告書や決算書からまずは調べて。

大野委員：農協に行くのはいいが、みんな日程が空いていない。

須藤委員：テーマは農業に絞ることにして、農協へは年内に行けたらよいのでは。

梅村委員：2頁の平均耕地面積とは。

（以下、音声欠落のため、会議中のメモを掲載する。）

大野委員：1頁の農作農地の減少平均 2.4ha/年とは。

商工農政課主事：過去5年間の平均値。

大野委員：整備計画も見ることがない。

商工農政課長：5年更新で、前回のものはある。

商工農政課統括主査：8月末までには県に案を提出予定。

大野議員：（発言）

商工農政課長：委員長にお渡ししてある。必要があればお渡しできる。

梅村委員：最後の頁の地図はどこに載っているのか。

商工農政課統括主査：５年ごとに作成して販売しているもの。

（メモここまで）

梅村委員：現状１４の施策を実施しているものの、農業は衰退傾向にあるという現状把握でよいか。

商工農政課長：事業を展開して協力をお願いしても、余裕がなく、協力できる人が少ない。野菜の広場も、農業フェアの出品数も、年々減少しており、大きく伸びているものはない。なんとか現状維持をしたいが、それすら難しい状況。

大野委員：野菜の広場は現在何軒か。

商工農政課長：５軒。

梅村委員：農家の意向は、出来れば拡大したいが、少なくとも現状維持を望んでいるか。辞めたいわけではないということでもいいか。

商工農政課長：拡大したい、という農家はほぼない。辞めたいという声もある。

梅村委員：肝心の当事者がそのような思いなら振興は難しいのでは。どう捉えたらいいのだろうか。

商工農政課長：農地を守っていきたい面もある。農地転用は仕方がないが、出来るだけ維持したい。４０haを占める水稻を担っている方が高齢で、後継者が必要。３ページの表の一番下「法人」はアイファームという農協が立ち上げた法人で、後継者育成に繋がるといい。

櫻井委員長：要は、儲かる仕組みをつくったらいいい。

次回日程：委員長が持ち回りで調整する。

委員会視察日程：１０月２４日～２６日